

カンタベリー大主教の来学と説教

昨（1987）年5月15日、カンタベリー大主教ロバート・アレキサンダー・ケネディー・ランシーを迎えて、チャペル建設予定地の地割式を挙行了。冒頭に掲げた写真と説教は、同大主教がその地割式に臨まれた際のものであり、大学の使命とその中心的な役割について述べるとともに、この大学の洋々たる将来の発展と、そのスピリチュアル・バックボーンとしてのチャペルの働きに対する大きな期待がこめられていた。

そもそも、現職のカンタベリー大主教が海外へ旅行するということは、史上希有のことであったが、1945（昭和34）年4月、第99代カンタベリー大主教であったジェオフリー・フィッシャー大主教は、宣教師たちによって福音信仰が初めて日本に伝えられて一世紀を迎えた日本聖公会の、宣教百年記念の大礼拝と行事に参加するべく来日した。それは、日本聖公会にとっても、この教会に連なる聖職と信徒にとって大いなる喜びであった。だがそれにもまして、英国宣教師によって創設されて以来、風雪に耐えて既に80年になんなんとする歴史を綴って来た本学院は、フィッシャー大主教の司式による開学式を挙行して、大学を創設する栄光を与えられたのである。以来、早くも四半世紀を越える年月を経過し、大学創立30周年記念行事としてチャペル建設の計画を推進しつつある。

時あたかも、日本聖公会は、大阪の地において組織成立の総会と大礼拝を挙行して以来100年を祝う感謝の大礼拝を行うこととなり、その開催地が大坂と決定したこともあって、ランシー大主教が来阪されることとなり、本学のチャペルの地割式にも参加される運びとなったのである。

5月9日、空路シンガポールより大坂空港に降り立ったランシー大主教は、翌10日の主日礼拝には神戸聖ミカエル大聖堂における聖餐式で説教を行い、休む間もなしに東京に飛んで、東京、横浜、北関東の三教区合同大晩禱礼拝で説教し、翌日は池袋の東横デパートを会場に開催中のカンタベリー展で祝

福を与え、再び、大阪に帰り、川口教会における大晩禱の司式をされた。翌日は、午前は日本聖公会の聖職たちのセミナーで発題講演、夕刻からレセプションという過酷なスケジュールを縫って、来学されたのであって、本学にとっては無上の光栄であった。

ランシー大主教は、翌日、大阪玉造にあるカトリック大聖堂における記念大礼拝の共同司式と説教を行い、その日のうちに大阪空港より一路ロンドンに向かって旅立って行かれた。

本学の地割式の説教に続いて掲げた説教と挨拶とは、それぞれ、神戸教区主教八代欽一、日本聖公会首座主教・大阪教区主教木川田一郎の両主教より、本論集への転載の許しを頂いて掲載することを得たのであって、ここに記して感謝する次第である。